

# ビンナガ 北大西洋

## Albacore, *Thunnus alalunga*



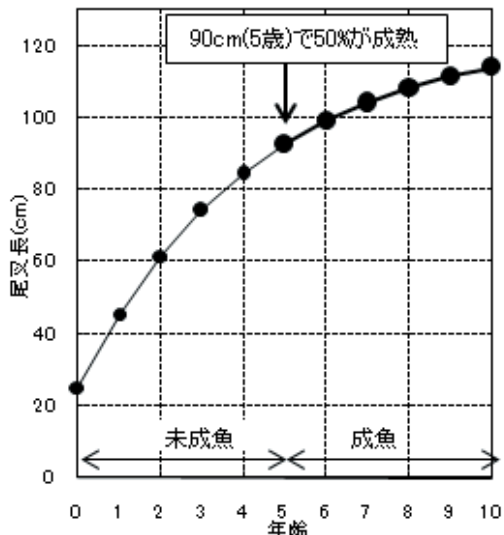
**管理・関係機関**

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

**最近一年間の動き**

2008年9月にICCAT調査統計委員会 (SCRS) が行われ、2007年の各国の漁獲量が報告された。本系群の漁獲量第1位および第2位のスペインおよびフランスの漁獲量は前年から4~5割減、遠洋はえ縄国の台湾及び日本の漁獲量も同様に大きく減少した。その結果2007年の総漁獲量は1950年以降最低の2.2万トンとなった。

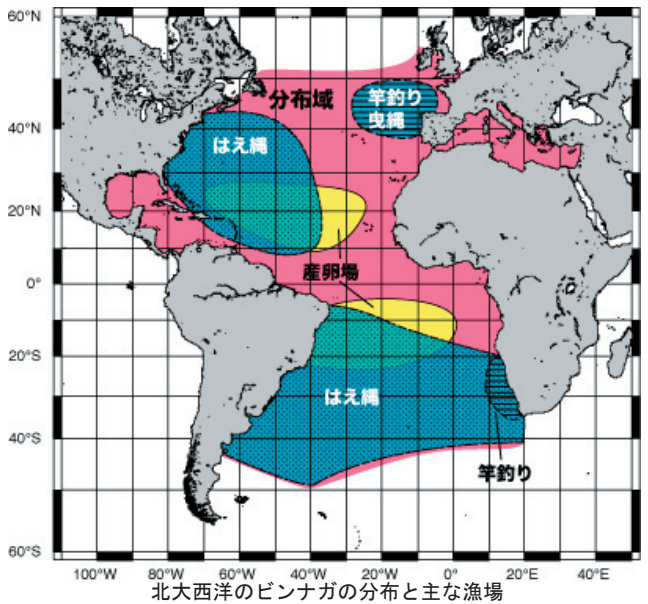
- 生物学的特性**
- 寿命：10歳以上
  - 成熟開始年齢：5歳頃
  - 産卵場：西部では北緯25~30度で、中部から東部では北緯10~20度
  - 索餌場：温帯域
  - 食性：魚類、甲殻類、頭足類
  - 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類



北大西洋ビンナガの年齢と尾叉長 (cm) の関係 (Bard 1981 より)

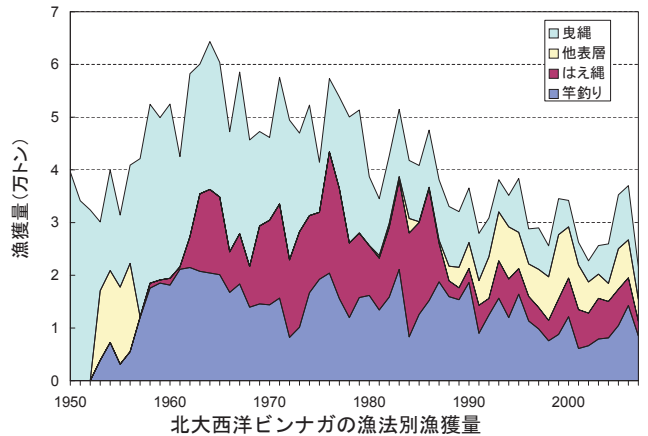
**利用・用途**

刺身や缶詰原料



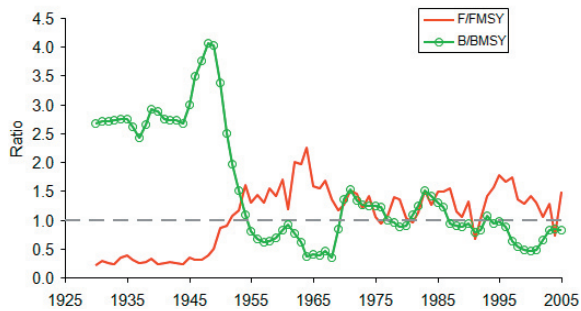
**漁業の特徴**

北大西洋のビンナガは、ビスケー湾周辺の海域でスペインのひき縄及び竿釣りで、またアゾレス海域でスペイン及びポルトガルの竿釣りで古くから漁獲されてきた。1980年代後半から、新しい漁業として、流し網や中層トロールによっても漁獲されるようになった。はえ縄による漁獲の総漁獲量に占める割合はあまり大きくなく、台湾が主に漁獲している。

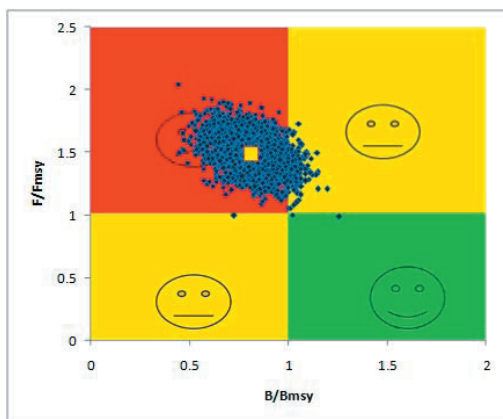


### 漁業資源の動向

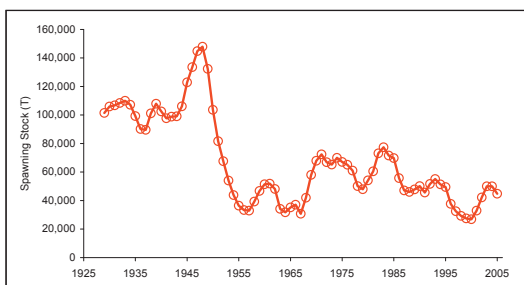
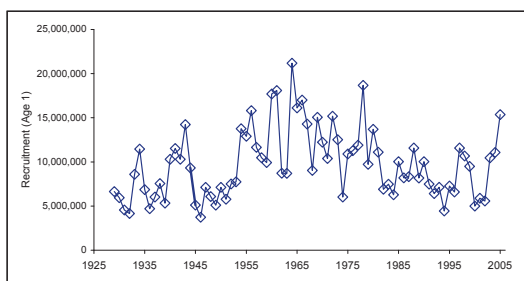
本資源の年間総漁獲量は1960年代中頃（約6万トン）がピークで、徐々に減少した。その原因は主にひき縄、竿釣り及びはえ縄などの伝統的な漁法の努力量の減少である。総漁獲量は1999から2002年にかけてかなり減少し2.3万トンまで減少した。その後、表層漁業による漁獲量が増加して、総漁獲量は2007年に3.7万トンまで回復した。しかし、2007年には表層漁業およびはえ縄漁業の両方の漁獲量が大きく減少し、2.2万トンと1950年以降最低を記録した。



北大西洋ビンナガのMSYを基準とした相対親魚資源量 (SSB/SSB<sub>MSY</sub>) および相対漁獲係数 (F/F<sub>MSY</sub>) (ICCAT 2007 SCRS Report より)



資源状態を表す SSB/SSB<sub>MSY</sub> と F/F<sub>MSY</sub> との間の位置関係 (1930 ~ 2005 年) (ICCAT 2007 SCRS Report より)



Multifan-CL モデルから得られた北大西洋ビンナガの1930 ~ 2005 年の加入量および親魚資源量 (ICCAT 2007 SCRS Report より)

### 資源状態

2007年に実施された最新の資源評価では、親魚資源量は2000年にはMSYレベルを50%下回っており、その後やや改善したもの、2005年には依然としてMSYレベルを20%下回っていた。漁獲係数は近年MSYレベルを上回っており、2005年には50%上回っているとされた。将来予測では、今後2005年レベルの漁獲が続けば、親魚資源量は減少すること、および漁獲量が30,000トン以上では親魚資源量は乱獲状態から回復できないことが示された。

### 管理方策

1999年から漁獲能力を抑えるために、入漁隻数を制限しているほか、TACも設定されており、2007年の決議では2008年および2009年の漁獲に対するTACは30,200トンとされた。また日本については、ビンナガを目的とした操業を行っていないので、漁獲量が大西洋全体におけるはえ縄によるメバチの漁獲量の4%以下になるよう努力するという規制が課せられている。

### 資源評価まとめ

- 2005年の親魚資源量はMSYを与えるレベルを20%下回っていた。
- 2005年の漁獲係数MSYを与えるレベルを50%上回っていた。

### 資源管理方策まとめ

- 2008 ~ 2009年のTACを30,200トンとし、国別クォータを設定。
- 漁獲能力（隻数）の制限。
- 日本にはビンナガの漁獲量を大西洋全体のはえ縄によるメバチ漁獲量の4%以下とする努力義務。

### ビンナガ（北大西洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	低位
資源動向	増加
世界の漁獲量 (最近5年間)	2.1 ~ 3.7万トン 平均 2.9万トン
我が国の漁獲量 (最近5年間)	261 ~ 1,336トン 平均 796トン